



国際化の最前線から



宿拠点・サステナブルな地域滞在

株式会社地域ブランディング研究所 代表取締役 吉田 博詞

文化・風習・交流をトータルデザイン

2022年6月に2年ぶりに訪日観光客受け入れが再開され、期待を寄せる地域も多いだろう。弊社もインバウンド向けの着地型体験プログラム造成・誘客を得意としており、回復には大いに期待を寄せている。

ただ、地域の着地型体験プログラムにおいては在り方を少し考え直す必要性が出てきている。これまでの観光は、各種施設をプロモーションして、いかに観光客を集めるかが1つのポイントになっていた。しかし、コロナ禍を経て、より地域のファンや経済波及効果も考えていく必要性が高まってきている。

訪日観光客誘致においても、写真映えする場所を売るというような単純な発想ではなく、宿泊施設を中心として滞在時間を提供し、その土地ならではの自然・風土・風習・食・人との交流といったものをどう提供できるかが再生のカギとなるだろう。体験プログラムや地域交流が四季折々の旬に基づいて、高単価でもわざわざ行きたくなる内容で準備されれば、満足度も上がっていくに違いない。

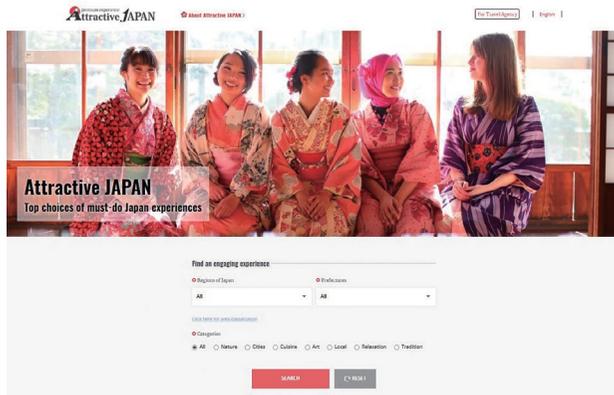
また、コロナ禍の2年でサステナブルツーリズムへの興味関心は高まるだけでなく、対応は必須事項になって

いる。特に欧米豪や所得水準の高い観光客においては、その対応をしていないと、クールではないので選ばれないという時代に突入しつつある。プラスチックゼロの環境配慮はもちろんのこと、祭りやまちなみ再生など、地域文化の持続性に積極参加していく、レスポンシブルツーリズムの観点も必要となってきた。それらが含まれたプランの方が高くても選ばれる時代になっており、観光客に対しては強要ではなく、喜んで参加する要素にも変わってきている。

今後は、地域自体の滞在性やサステナブルへの対応要素を再構築・編集し、取り組みを発信していくことが、地域を応援してくれる層の誘客につながるだろう。地域の好循環に貢献するようなサイクルの創出に期待したい。



浅草のプログラムでは、衰退の危機がある芸者文化を応援するストーリーを盛り込む



「Attractive JAPAN」地域のオリジナルな体験を多言語で紹介、海外旅行会社とつなぐWEBサイト

プロフィール

吉田 博詞 (よしだ ひろし)

1981年広島県生まれ。(株)リクルートなどを経て、2013年(株)地域ブランディング研究所設立。インバウンド向け着地型体験プログラムのマッチングサイト「Attractive JAPAN」を運営。観光庁・農林水産省・文化庁などの各種委員を歴任。せとうち・浅草・沖縄などにおいて、欧米豪や富裕層向けの地域滞在やサステナブルな地域づくりをサポート。